

「誰もが腫瘍を検査する必要があります！」

肺がん5年生存者



雪片が1つずつ異なるように、肺がん診断は一人一人異なります。医学の進歩により、今や肺がんの特質を検査することができます。結果に応じて、特定の分子標的治療を受けるというオプションがある場合があります。治療を決定するにあたり最善の情報が得られるように、腫瘍を検査することは大変重要です。

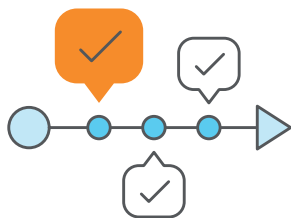


個別化医療とは？

個別化医療において、医師が人の腫瘍の特質を知り、腫瘍が治療によりどのように変化するかを知るのに役立ちます。がん細胞の検査を実施することで、医師は、がんをより効果的に治療するために、各患者の状況に合わせて、治療を組み立てることができるようになるかもしれません。

他に知っておくべきことは？

- 腫瘍検査を受ける！
 - この検査では、他の医師が血液や組織を採取する場合があります。この検査結果は病理医が判定します。
 - 検査を受けたら、腫瘍に特有の治療法があるかどうかを探るか、臨床試験が利用可能かどうかを議論してください。
- 分子標的治療ができる遺伝子マーカーには、EGFR、ALK、ROS1、およびBRAFなどがあります。しかしながら、さらなる遺伝マーカーが次々と発見されています。
- たとえあなたの腫瘍に遺伝子マーカーがなくても、化学療法と放射線療法が進歩していることを理解することが重要です。



次のステップは？

精密医療は、急速に変化しているがん治療の中でも今まさに発展中のアプローチです。個別化肺がん治療法をあなたの治療に取り入れることができるかどうか、主治医に相談してください。

精密医療の他の肺がん患者への効果については、LCAM.org を参照ください。

#HOPELIVES
より多くの研究。より多くの生存者。

